

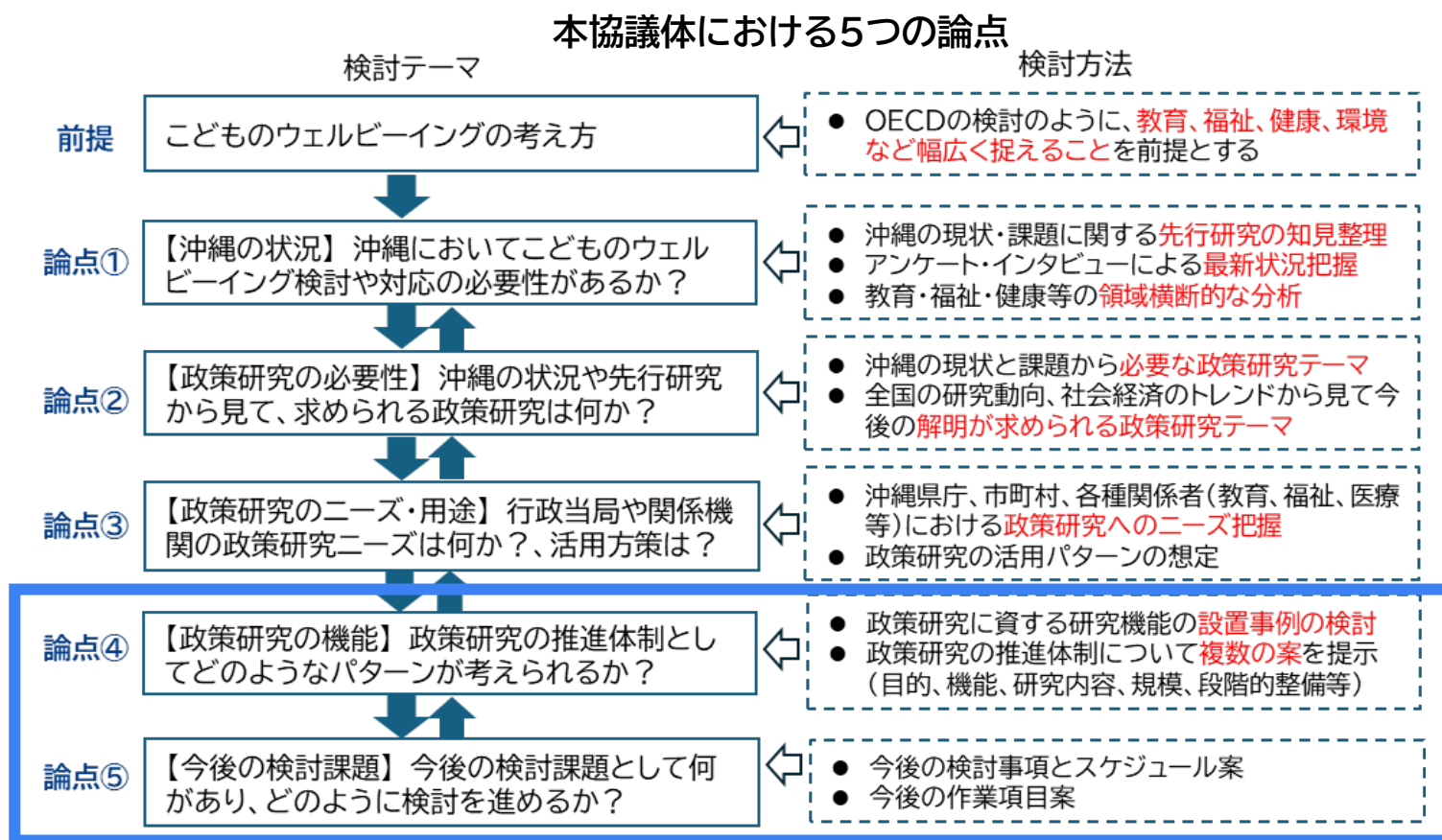
これまでの協議体の議論のまとめ、本日の討議事項等

目次

1. 検討の進め方	3
2. 本日の議論の流れ	5
3. これまでの協議体における議題及び概要、まとめ	6
4. 今後の検討課題(論点⑤)	20
【参考資料】	21

1. 検討の進め方(1)

- 第5回協議体では、これまでの議論を踏まえた年度総括を行い、政策研究を推進する体制のあり方について整理するとともに、今後の検討課題を明らかにする。

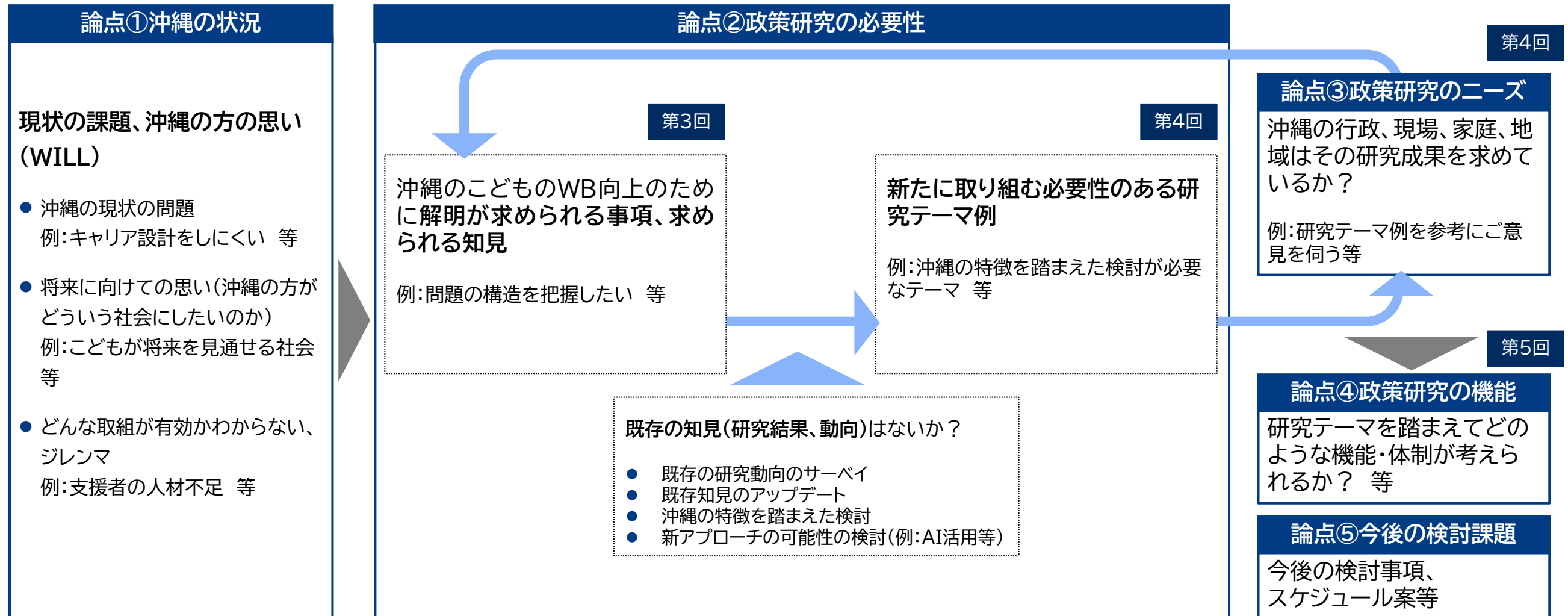


協議体の開催スケジュール

各回 (日程候補)	各回の検討テーマ、議題(論点番号は左図と対応)
第1回 (令和7年 6月25日)	事業の目的を踏まえ、ウェルビーイングを導入する意義を明らかにしたうえで、協議体での本年度のゴールを共有する。(前提)
第2回 (令和7年 8月29日)	既存調査・研究から見た沖縄のこどもの現状・課題を踏まえ、沖縄におけるウェルビーイング導入の必要性を明らかにする。(論点①②)
第3回 (令和7年 10月27日)	全国の政策研究課題や政策研究テーマの例を踏まえ、解明が求められる政策研究を明らかにする。(論点②) 追加して、研究体制の在り方を検討する。
第4回 (令和7年 12月12日)	第3回の事例に追加し、各種関係者へのヒアリング結果も踏まえ、沖縄におけるこども施策向上のためのニーズや活用方策を明らかにする。(論点②③④) 追加して、研究体制の在り方を検討する。
第5回 (令和8年 2月中旬)	これまでの議論を踏まえた年度総括を行い、政策研究を推進する体制のあり方について整理するとともに、今後の検討課題を明らかにする。(論点④⑤)

1. 検討の進め方(2)

- 沖縄の現状の課題・沖縄の方の思いをもとに、解明が求められる事項を整理し、既存知見の有無を確認した上で、新たに研究する必要性の検討を行う。
- 政策研究のテーマ例(論点②)はニーズ(論点③)を踏まえて見直す(ループ状の検討)。



2. 本日の議論の流れ

事務局 説明

資料2

(1)これまでの協議体の議論のまとめ、本日の討議事項等

- これまでの協議体における議題及び概要
- これまでの協議体のまとめ
- 今後の検討課題

事務局 説明

資料3-1

(2) こども・若者意見交換会の結果報告

- こども・若者意見交換会(1月17日実施)の結果報告
 - こども・若者からの主な意見
 - 研究テーマに関連するこども・若者の意見

(3) 国立大学法人琉球大学おきなわこどもまんなかウェルビーイングセンター研究事業進捗報告(国立大学法人琉球大学)

資料4

(4) 満足度・生活の質に関する調査報告(内閣府、国立成育医療研究センター竹原構成員)

資料5-1、資料5-2

- 国立大学法人琉球大学おきなわこどもまんなかウェルビーイングセンター研究事業について、琉球大学よりご報告
- 内閣府にて実施した「満足度・生活の質に関する調査」の結果を内閣府より報告
- 同調査の分析結果を竹原構成員よりご説明

意見交換

- 「沖縄のこどもにとって大切なこと」(p.11)について、その他の要素があるかご意見をいただきたい。
- 政策研究テーマについてご意見をいただきたい。また、その政策研究テーマに取り組むために必要な機能や体制について、ご自身のお立場や組織でどのような関わり方が考えられるか、ご意見をいただきたい。
- 今後の検討課題について、ご意見をいただきたい。

3-1. これまでの協議体における議題及び概要

会議	時期	議題
第1回	令和7年 6月25日	沖縄におけるこどものウェルビーイング実現に向けた今後の検討の進め方について ・ 事業の目的・進め方について(受託者) ・ こどもウェルビーイングについて(こども家庭庁) ・ ウェルビーイングの考え方、政策研究の推進体制に関する海外事例について(受託者) ・ 国立大学法人琉球大学おきなわこどもまんなかウェルビーイングセンターの研究概要について(国立大学法人琉球大学)
第2回	令和7年 8月29日	沖縄における「こどものウェルビーイングの考え方」の導入の必要性について ・ 本日の討議事項、前回の振り返り等(受託者) ・ 沖縄におけるこどもと大人の目指すべき関わり方について(受託者) ・ こどもが大人に伝えたいことー「こども・若者の意見表明」よりー(沖縄県庁講演) ・ 「ウェルビーイングの考え方」の導入意義ー沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題を踏まえてー(受託者) ・ 沖縄におけるこどものウェルビーイングに関する政策研究テーマ(受託者) ・ 今後の調査等について(受託者)
第3回	令和7年 10月27日	沖縄のこどものウェルビーイング実現に向けた取組を持続可能なものとしていくための研究テーマや必要な研究体制の機能について ・ 本日の討議事項、前回の振り返り等(受託者) ・ ヒアリング結果、政策研究テーマ例(受託者) ・ こども・若者のこえを中心にしたPDCAサイクルで実現する持続可能な支援体制(国立成育医療研究センター竹原構成員 講演) ・ こどものウェルビーイングの実現に向けてーこども政策への「ポジティブ・デビアンス」の活用ー(公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学ヘルスコミュニケーション領域 領域長、厚生労働省 参与 溝田友里准教授 講演)
第4回	令和7年 12月12日	沖縄のこどものウェルビーイング実現に向けたこども施策向上のために必要性の高い研究テーマと機能について ・ 本日の討議事項、前回の振り返り等(受託者) ・ アンケートデータを用いた主観的要素等に関する分析・有識者ヒアリング調査の結果報告(受託者) ・ 政策研究へのニーズ、テーマ、推進体制に関する報告(受託者) ・ 満足度・生活の質に関する調査報告(内閣府) ・ 国立大学法人琉球大学おきなわこどもまんなかウェルビーイングセンター研究事業進捗報告(国立大学法人琉球大学) ・ こども・若者意見交換会について(受託者)

3-1. これまでの協議体における議題及び概要(第1回)

こどもと大人の関わり方

- こどもと関わるうえで、沖縄のこどもたちにどんな若者・大人になってほしいのかをしっかりと考えていきたい。
- こどもに携わる大人の意識が低いと感じる。関わる人の意識を変えることが重要。そのあたりの調査、取組があるとよい。
- 沖縄では地域の子は地域で育てるという言葉があるが、どれだけそういった地域の大人がいるかという点では、こども会やPTAなどの地域団体も減少して壊滅するかもしれない。
- こどもにとって最大の環境は親・家庭。家庭・保護者に対する支援を充実させる必要あり。学校現場でソーシャルワーカーと取組を行っているが、限界がある。
- 中高生から児童養護施設に入るこどもたちが非常に多くなっている。こどもたちとの信頼関係が必要であり時間のかかる仕事だが、職員の離職率が高い。

こどもの成長、長期的にみたWBの視点、キャリア形成に係る問題

- 今困難な状況にある人がどういうライフコースとなるか。苦しんでいる成人した人、若者はどういうこども時代を送ってきたか。
- こどもは成長が重要。こうだったらこうなるというのを研究してほしい。
- 沖縄の子どもは進路未決定のまま高校卒業してしまうという問題がある。

こどもに関わるおとな、支援者のWBの向上の必要性

- 関わるおとなの幸福度が上がると子どもの幸福度もあがる。／保護者のウェルビーイングがないといけない。／大人のウェルビーイングもしっかりと。
- 子育てを親任せになるのではないかと危惧。その辺の提言がほしい。

サポートの仕方の改善方策

- 困りごとがあったときに相談する体制ができていない。地域や関係者に知られる懸念もあり、困った状態をなかなか感知できない。
- 医療費が無料でも利用されていないのは保護者が休めない、給料が減る、交通費がかかるから。
- 健診での再検査で受診していない人の割合が沖縄は高い。どういう背景の人たちかを、福祉とつなげた分析をするよい。
- 医療だけでなく身体的、精神的、社会的なサポートが必要

サービス供給体制、関係機関の連携、職員の人材育成、ウィンウィンの仕組構築のために

- 職員がいっぱいいっぱい人手が足りない。
- 学校現場をどうサポートするかが重要。／居場所と学校が繋がっていない。
- 学生ボランティアの活用等により、みんながちょっとずつでウィンウィン関係をつくっている。
- 人材育成も重要。支援員の充実のためにどういう方を採用するのか、どう研修していくのか。

3-1. これまでの協議体における議題及び概要(第2回)

(求められる研究スタンス) データに基づく分析の必要性	● データが集まることを前提にWBを考えること、身体的・精神的・社会的プラス幸福感という分析が必要。 ● 支援とデータのリンクがないため、どの程度の介入、どのような支援が有効だったのか結果が分からない状況。 ● 複数地域での比較、支援を受けた人と受けていない人の差異を見るといったデータに基づく検討が重要。
(研究の視点) 検討の進め方(こどもの声の解析、目標設定、バイオ・サイコ・ソーシャル等)	● こどもが夢を持てる社会を作り、大人がその夢を潰さない社会の構築が重要。「夢」よりもきちんとしたスケールが必要。 ● 何があったら一番助かったと保護者が思ったかが見えてくると、もっと積極的に関われるのではないか。 ● こどもの声を集め、協議体を活用しつつ、それを解析し、政策への反映、効果の検討に使う仕組みが重要。 ● バイオ・サイコ・ソーシャルモデルでは、ソーシャルにはいくつかの要素があるところ。
(沖縄における問題点) 幼少期からのキャリアビジョン形成の課題	● 18歳で高校を卒業すると島外・県外に出るがメンタルがやられて帰ってしまうことが多い模様。 ● 県外の研修会には地理的、費用的な問題で参加しにくいという問題。 ● 産業の種類が少なく、就職先・就学先の選択肢が狭まることで、本人たちが気付かずに制限を受けている。 ● 小学生・中学生のころから県外進学や留学について知ることができれば努力する時間があつたのではないかという声あり。 ● 自己肯定感が上がっている印象はあるが、将来に対する不安感が逆に増しているという結果もある。
(沖縄における問題点) 支援の仕方の工夫の必要	● 支援が必要な家庭の保護者からは支援は不要との声があり、対応しにくい面がある。 ● こどもの経験値が絶対的に不足、周囲の大人が環境をつくる必要。 ● 精神的支援を求める声が小中高生ともに3割前後あり、対応が必要。
その他	● こどもに多様な体験をさせるため、自治体ごとに体験事業が必要。 ● 子育ての環境を測る指標として「この地域で今後子育てしていきたいと思うか」といった項目も考えられる。

3-1. これまでの協議体における議題及び概要(第3回)

(期待されるテーマ・機能) 指標に関するご意見	● どの施策がこどものウェルビーイングにつながったのかの指標として、全県で共通した項目を設定いただき、定点調査としてデータ蓄積・比較検討できると行政としては助かる。 ● こどものウェルビーイングの指標については、健康指標も必要と考える。
(期待されるテーマ・機能) 連携に関するご意見	● 産後のケアに助産師を活用するなど、ハード面の構想を県と協議しながら研究を進める必要があると感じている。 ● こどもの生活の場は、家庭と学校が非常に大きい部分を占めているため、やはり教育と連携しながらこどもたちの問題の把握や解決に向けていかなくてはならないと思う。
(期待されるテーマ・機能) 支援の難しさに関するご意見	● 支援が必要と思われる家庭の保護者から「うちは大丈夫です」と言われるケースがあり、「サポートの仕方の改善方策」、「こどもに関わるおとなのWB向上方策」については、ぜひ研究していただきたい。 ● こどもの意見を聞いてそれを政策展開していくことは重要であるが、例えば不登校のこどもたちの声をどう拾ってサポートにつなげていけるか、地域や居場所にもつながっていないようなこどもも一定数いるのではないかと懸念している。 ● 児童養護施設では、退所後に顔を見せに帰ってくることが非常に少ないという現実がある。
(期待されるテーマ・機能) 持続可能な取り組みに関するご意見	● 今までの「支援」という観念ではなく、応援やエールを送って自分で立ち直っていくようなことを中心として考えなければならない。 ● 当事者参加型アクションリサーチは非常によいと思う。受け身ではなく、自分たちが参加し企画し育っていくという考え方は、沖縄のこどもにとって必要。 ● 重要なのは当事者に議論いただき、「これなら自分たちもできる」ということを考えたり選んだりすることである。 ● 貧困など、関心がない・経験不足で検討の場に参加できない層についても、沖縄における本事業において対象から外せない層であり、そういったグループには別のアプローチが必要になる。 ● ポジティブ・デビアンスを沖縄で活用する際に、行政としてどのような構成メンバーで事務局を組めばよいのか検討の余地がある。
その他	● データの連結におけるDX化について、プライバシー保護のためデジタル化できない紙媒体があり困難性を感じている。 ● 好事例について、他者との関わりや、自分で行ったこと、考えたこと等、行動を分解し要素を抽出することで、同じ経験はできなくても、今の状況に適応する形で新しいプログラムを検討し、似た経験をしてもらうことは可能である。

3-1. これまでの協議体における議題及び概要(第4回)

アンケート結果の深掘りについて

- 本島と離島で自己肯定感・幸福感に差が出ているということは興味深く感じた。特に、離島の子どもたちのほうが幸福を感じているという結果がよく表れていることについて深掘りしてもらえれば、周囲の環境の影響によって、幸せと感ぜられるかが明らかになるのではないかと。
- 居場所があると幸福度が上がるという結果から、居場所にどのような機能があるか、子どもたちがどのように扱われているかなど深掘りをするためのアンケート調査等を行っていただきたい。
- 離島の子どもたちは15歳の春に島を出ることへ、大きな不安を抱えている。島にいる間の幸福度は高いかもしれないが、島から出たら突然大勢の人に囲まれ他者評価を受け、厳しい思春期を迎える。数字上では幸福度が高いかもしれないが、内情を知っていただきたい。
- 非行に走った子どもに対象を限定するといった試みも考えられる。
- 主観だけでなく、主観的要素に影響を与える、教育や雇用、賃金といった社会の状況に踏み込んで、今後調査が実施されるとよい。子どもの努力だけでは超えられないものがあるため、企業や教育に向けて啓発していくなど、社会側に踏み込むことができるような調査・研究が行われるとよい。

(期待されるテーマ・機能) 子どもを取り巻く大人に関するご意見

- 子どもを支える人材を育成・確保するための、関係機関の連携(行政、教育現場、NPO等)や人材バンク等の仕組みづくりが求められる。
- 親が子どもにどのように関われば子どもの自己肯定感を高めることができるのか、調査し深めていく必要がある。
- こどものライフコースに沿って課題を整理し、それぞれのライフコースで我々の専門性をどのように活かせば、子どもたちが次のステージへ進む際にどのような良さを引き出せるか明確にし、人材の養成・活用が可能になるのではないかと。その際、親の介入の仕方も併記するとよりよい。
- 沖縄の大人に子どもに関わるゆとりがあるのか、この調査結果も併せて見ていきたい。
- 保育分野の実態も、子どもに関わる大人のウェルビーイングと強く関係するものとして深掘が必要だと考える。

3-2. これまでの協議体のまとめ 沖縄のこどもにとって大切なこと(論点①)

- 協議体では、こどものウェルビーイングのために、「沖縄のこどもにとって大切なこと」を検討することの必要性が議論され、こども・若者(本人)の要素と、環境要因(本人以外)の要素があることを確認した。なお以下は現段階での検討すべき観点であり、今後、調査の進捗(特に沖縄のこどもの特徴)に合わせて更新されることが想定される。

沖縄のこどもにとって大切なこと

- こども・若者(本人)
 - 自尊心^{*1}・自己肯定感・自分らしさ
 - こころの問題
 - 体験
 - 将来への希望・夢
 - 学ぶ楽しさ^{*1}、学力^{*2}
 - こどもの人権^{*1}
- 環境要因(本人以外)
 - 家庭・妊婦・親の状態
 - 学校・保育の役割
 - 地域・コミュニティの形成
 - 相談する/応援してくれる人
 - 貧困対策
 - 安心・安全^{*1}
 - 沖縄独自の文化^{*1}

その他の大切な観点

- 貧困対策を中心に、すべてのこども対象(ポピュレーションアプローチ)
- 沖縄県内の好事例の展開(ポジティブ・デビアンス)
- データの利活用によるPDCAサイクル

第3回協議体資料(本資料p.40に再掲)を基に*部分を追記

*1 構成員の意見から追加

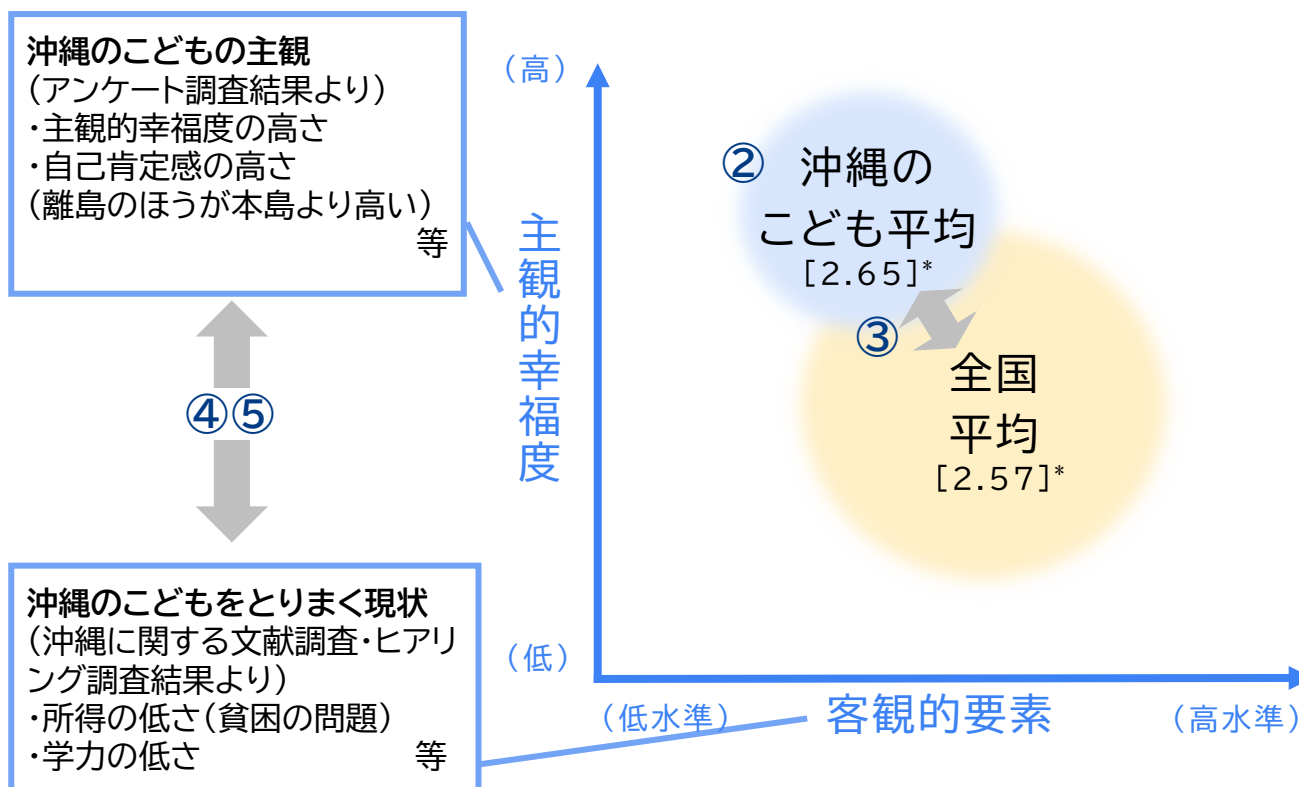
*2 こども・若者意見交換会の意見から追加

3-2. これまでの協議体のまとめ ウェルビーイング検討や対応の必要性(論点①)

- 全国と比較して、沖縄のこどもは主観的幸福度が高い状態であるが、これまで確認してきたとおり問題も残されている。ここから、例えば、ウェルビーイングについて①～⑤のような研究を行うことの必要性が確認された。

主観的幸福度・客観的要素の関係イメージ

- ① 【前提】目標設定のため「沖縄のこどもにとって大切なこと」を定義したい



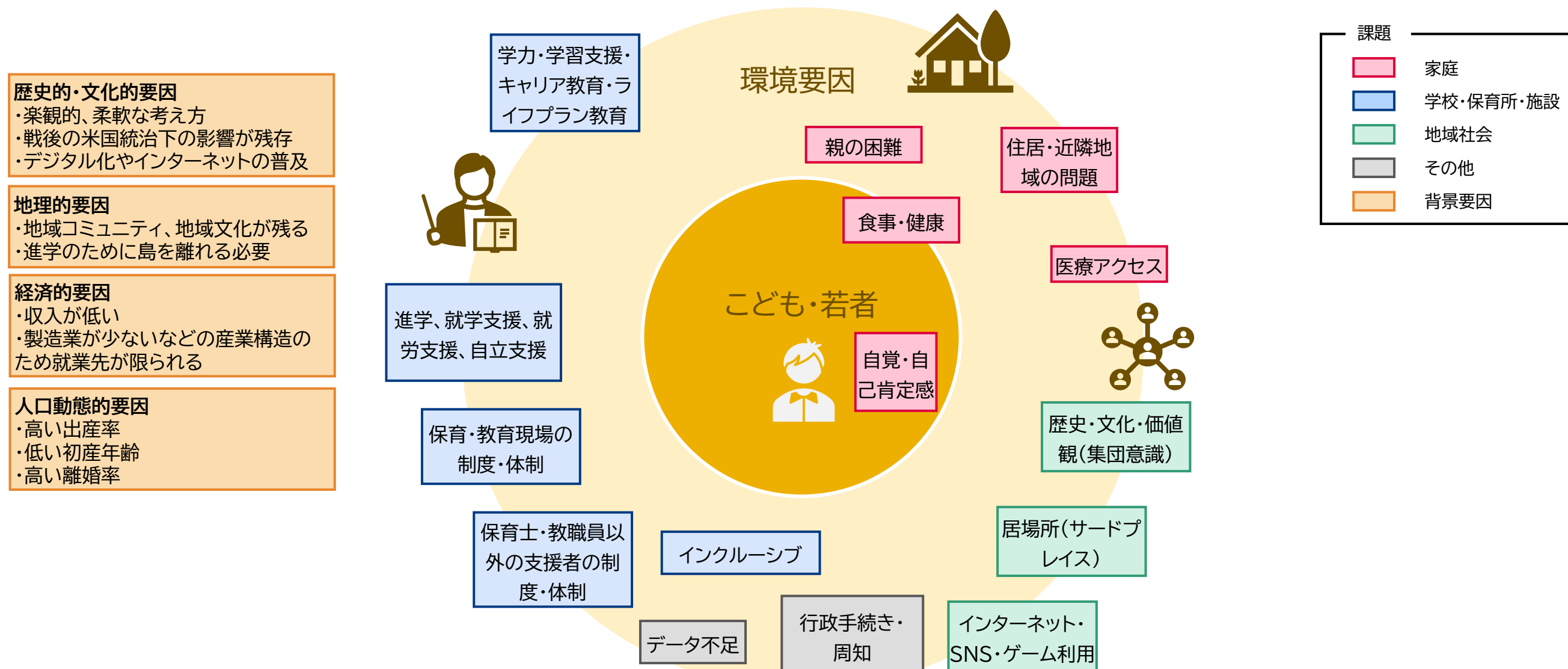
研究テーマ例と、アンケート調査等から得られた深掘する観点 ※以下番号は図中と対応

- ① 沖縄のこどもウェルビーイングの指標体系の作成
- ② 沖縄のこどもウェルビーイングの定点把握
 - ・ 客観要素が不足している他県との比較
 - ・ 沖縄県内の地域別の分析
- ③ 沖縄のこどもに関わる社会文化的特徴の研究
 - ・ 気候や離島の特性
 - ・ ゆいまーに代表される沖縄文化の特性
 - ・ 沖縄のこどもの「高い自信」の背景の分析
- ④ サポートの仕方の改善方策に関する研究
 - ・ 学力低下が始まるタイミングの違い、地域性やその要因
 - ・ 居場所の数に加え、それらの連携方法の検討とその影響・効果の分析
- ⑤ こどもが大人になるまでの発達過程の長期的なウェルビーイングの変化や要因、キャリア形成のあり方の研究
 - ・ 沖縄からの転出、戻ることとウェルビーイングの関係性

*[]の数値は、沖縄のこども平均は本業務で実施したアンケート調査の問2より、全国平均はこども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度)」の問2より、「そう思う」～「そう思わない」の選択肢を3～0の数値に変換し、回答者割合で加重平均して計算した主観的幸福度。

3-2. これまでの協議体のまとめ ウェルビーイング検討や対応の必要性(論点①)

- 沖縄のこどもを取り巻く問題の背景には、沖縄特有の歴史・文化的、地理的、経済的、人口動態的な課題がある。この特殊性を鑑み、こどものウェルビーイング研究と社会実装の仕組構築が必要である。



沖縄のこどもの
理想像、目標像
の検討

各種政策の上位目標となる

沖縄のこどもWBの指標体系の作成

沖縄の方の思い、関係者の議論を通じて目標像を設定、そのうえで指標体系を整備。長期的には、政策を評価する際の尺度とすることを目指すことが考えられる。

政策プロセス
(PDCAサイクル)

政策に直接つながる研究

現状把握

問題の原因分析

対策

効果分析・改善検討

沖縄のこどもWB の定点把握

政策の効果、政策の評価のための研究

政策プロセスの改善に貢献する研究

背景要因の構造分析*

支援体制の改善に資する分析*

バイオ・サイコ・ソーシャルにまたがる課題構造の実態分析

こどもが大人になるまでの発達過程におけるWBの変化、要因、キャリア形成等の研究

こどもに関わるおとなのWB向上方策の研究

沖縄のこどもに関わる社会文化的特徴の研究

ネット社会の影響と対策に関する研究

支援機関間の効果的な連携 方策に関する研究

困ってる層のサポートの仕方 の改善方策に関する研究

民間主体によるこどもWB向上への貢献手法の可能性、効果的な手法に関する研究

※研究だけでなく、「好事例」の収集や共有も有効

*各研究テーマの中でPDCAサイクルを回すが、ここではより関連性が高い政策プロセスと各研究テーマを紐づけた。

中学卒業後のこども・若者の課題把握、対策のための研究

情報基盤、データ
基盤

情報基盤

データ基盤

こどもWBに資する研究動向 サーベイと情報提供、研究戦略 の立案のための研究

沖縄のこどもWBの定 点把握(再掲)

他県との比較、県内地域間比較のできるデータ

こどもの声の把握、対応の方策に関する研究

(土台)

3-2. これまでの協議体のまとめ 研究テーマ(論点②)

- 協議体や構成員アンケートにおける構成員からの意見のうち、研究テーマを実施するための具体的なアプローチの例となる意見を抽出し、研究テーマごとに整理した。

※赤字:構成員アンケート上位5つ

研究テーマ	具体的アプローチ例(抜粋)
支援機関間の効果的な連携方策に関する研究	沖縄県内における各市町村へのアンケート
困っている層のサポートの仕方の改善方策に関する研究	- こどもの考えるウェルビーイングと我々の考えるウェルビーイングのギャップに関する研究 - 児童虐待、ACE、社会的養護およびその経験者に関する調査 - 小規模離島のこどもの背景分析、支援の検討 - 居場所に関するアンケート調査 - こどもの自己肯定感を高めるための調査 - こどものライフコースに沿った課題と必要人材の整理 - 非行に走ったこどもを対象を限定したアンケート調査 - 離島における絵本の読み聞かせの効果の調査 - 沖縄の教育水準向上や学ぶ楽しさ・自尊心をはぐくむための効果的な方策の調査・実証
こどもの声の把握、対応の方策に関する研究	こどもの意見やデータをどう収集・活用するかだけでなく、こどもに効果を実感してもらう・結果をフィードバックするための方法の検討
バイオ・サイコ・ソーシャルにまたがる課題構造の実態分析	健康長寿や生活習慣に関するこどものデータ分析
こどもが大人になるまでの発達過程の長期的なWBの変化や要因、キャリア形成のあり方の研究	今困難な状況にある人がどういうライフコースとなるか。苦しんでいる成人した人、若者はどういうこども時代を送ってきたかに関する調査
沖縄のこどもWBの指標体系の作成	様々なこどもたちの意見・沖縄県の意見を、WantsとNeedsに分けて整理し、Needsの共通認識をもつ。
ネット社会の影響と対策に関する研究	デジタル環境の影響に関する調査

研究テーマ	具体的アプローチ例(抜粋)
こどもに関わるおとなのWB向上方策の研究	- 幸福を感じていない親に対するヒアリング調査 - 沖縄のシングルマザーへのアンケート調査及び前向きな回答があった者へのインタビュー調査 - ひとり親家庭における養育費に関する調査 - 沖縄の大人にこどもに関わるゆとりがあるのかに関する調査 - こどもに関わる大人のウェルビーイングと強く関係するものとして、保育分野の実態調査 - 教師の幸福度についてのデータ分析や先行研究調査 5歳児健診の実施による小学校入学後の教師の負担軽減についての調査・実証
沖縄のこどもに関わる社会的文化的特徴の研究	- アンケートで幸福だと答えた沖縄のこどもに対する詳細のヒアリング調査 - アンケートで自分に自信があると答えた沖縄のこどもに対する詳細のヒアリング調査 - 離島のこどもの幸福度の高さ、島立後の他者評価に関する調査 - 主観的要素だけではなく、教育や雇用、賃金といった社会の状況に踏み込んだアンケート調査の実施
他県との比較、県内地域間比較のできるデータ	- 沖縄県内や全国と比較可能な共通のデータや指標による客観分析・評価調査 - 複数地域での比較、支援を受けた人と受けていない人の差異を見るといったデータに基づく検討が重要。 - どの施策がこどものウェルビーイングにつながったのかの指標として、全県で共通した項目を設定いただき、定点調査としてデータ蓄積・比較検討できると行政としては助かる。 - 全国調査のうち三大都市圏を除外したデータと沖縄県のデータの比較調査
民間主体によるこどもWB向上への貢献手法の可能性、効果的な手法に関する研究	- 沖縄の社会課題に取り組む子どもたちを育成するスクール(中学・高校の出席扱い)の開催 - 学外で自由な発想をぶつけ合い、自分で考えた課題に取り組むユースセンターの運営実証研究

3-2. これまでの協議体のまとめ 研究テーマ(論点②)

- 協議体の構成員へのアンケートの結果、以下の5テーマについての優先度が高いことが確認された。具体的アプローチは今後検討する。(次ページに続く)

研究テーマ	問題意識(抜粋)	具体的アプローチ例(抜粋)
支援機関間の効果的な連携方策に関する研究	● こどもに関する情報を、簡易かつ個人情報管理をしつつどのように共有するか。 ● こどもに連続した対応をするため、例えば、学校と居場所との連携をどう進めるか。 ● 最適な支援に向けた支援組織間の連携、の分業体制の見直し。	● 沖縄県内における各市町村へのアンケート(各市町村におけるこどものウェルビーイングに関連する部課や団体の一覧作成、自治体レベルの好事例の収集) ● 地域社会の実情を知り、関係機関とつなぐことのできる「地域コーディネーター」の役割に注目した支援機関間連携のモデルの構築のための研究
困っている層のサポートの仕方の改善方策に関する研究	● 困っている層における各種問題の構造、関係の分析をする必要がある。 ● 困っている層に負担感や抵抗感を感じさせずに支援を届ける方法を解明する必要がある。 ● 教育・福祉・保健分野にまたがった支援策について実験的アプローチも含めて検討する必要がある。	● こどもの考えるウェルビーイングと我々の考えるウェルビーイングのギャップは何なのか、そのギャップを埋めるためにどういった活動をすれば良いのかという研究 ● 児童虐待、ACE、社会的養護およびその経験者(いわゆる虐待サバイバーやケアリーバー)に関する調査 ● 小規模離島のこどもの背景分析(自己意識、施設の状況、島立、医療アクセス)、支援(限られたリソースでの継続的な支援)の検討 ● 居場所に関するアンケート調査(居場所があると幸福度が上がるという結果から、居場所にどのような機能があるか、こどもたちがどのように扱われてるかなど) ● こどもの自己肯定感を高めるための調査(親がこどもにどのように関わればこどもの自己肯定感を高めることができるのか、学習のつまづきと自己肯定感の関係、将来への希望や体験の影響等) ● こどものライフコースに沿った課題と必要人材の整理(それぞれのライフコースでこどもたちが次のステージへ進む際にどのような良さを引き出せるか、既存人材の活躍・新たな人材の育成の方向性の可視化、親の介入の仕方等) ● 非行に走ったこどもを対象を限定したアンケート調査(孤独感の低さの深掘り調査) ● 沖縄の教育水準向上や学ぶ楽しさ・自尊心をはぐくむための効果的な方策の調査・実証 ● 離島における絵本の読み聞かせの効果(愛着形成等)の調査

※一部抜粋。詳細は資料6-2に整理

3-2. これまでの協議体のまとめ 研究テーマ(論点②)

- (続き)協議体の構成員へのアンケートの結果、以下の5テーマについての優先度が高いことが確認された。具体的アプローチは今後検討する。

研究テーマ	問題意識(抜粋)	具体的アプローチ例(抜粋)
こどもの声の把握、対応の方策に関する研究	● こどもの声の把握に関する有効事例の検討、実験的アプローチを検討する必要がある。 ● こどもの声への対応に関する事例調査、政策や現場での取組への活用方策を検討する必要がある。 ● 新技術の活用(例:表情や声のAI解析技術)の可能性を視野に入れた研究も期待される。	● こどもの意見やデータをどう収集・活用するかだけでなく、こどもに効果を実感してもらう・結果をフィードバックするための方法の検討 ● 様々な形態(言語、非言語)で発信されるこどもの声の捉え方や検討過程におけるこどもの参画の研究。 ● 苦しい状況で引きこもっているようなこどもから意見を聴くための方法の検討
バイオ・サイコ・ソーシャルにまたがる課題構造の実態分析	● バイオ・サイコ・ソーシャルにまたがる視点での実態を把握し、解決の方向性を見出す必要がある。 ● 困っている層において健康診断の受診率が低い等の問題がある。貧困状況による健康格差、体験格差等も指摘されている。	● 健康長寿低下に関するこどものデータ分析。例えば乳幼児健診のデータや生活習慣、環境的变化の分析 ● 不登校の問題について、教育、福祉、保健医療にまたがる総合的な分析の実施
こどもに関わるおとなのWB向上方策の研究	● こどもに関わる大人(保護者、教師、支援者等)のWBが高いとこどものWBも高まる傾向がある。大人のWBの因子については各種の研究がある。 ● こどもに関わる大人のWBを向上させるために何が重要か、政策的対応の可能性はないか等を解明することが求められる。	● 幸福を感じていない親に対して、自分のこどもの頃を振り返ったり、自身のこどもにどのような環境を作っているかやその背景等についてのヒアリング、要因分析 ● 沖縄のシングルマザーへのアンケート調査及び前向きな回答があった者へのインタビュー調査 ● ひとり親家庭における養育費の取り決めや養育費の受給の有無等実態に関する調査 ● 沖縄の大人にこどもに関わるゆとりがあるのかに関する調査 ● こどもに関わる大人のウェルビーイングと強く関係するものとして、保育分野の実態調査 ● 5歳児健診の実施による小学校入学後の教師の負担軽減についての調査・実証

※一部抜粋。詳細は資料6-2に整理

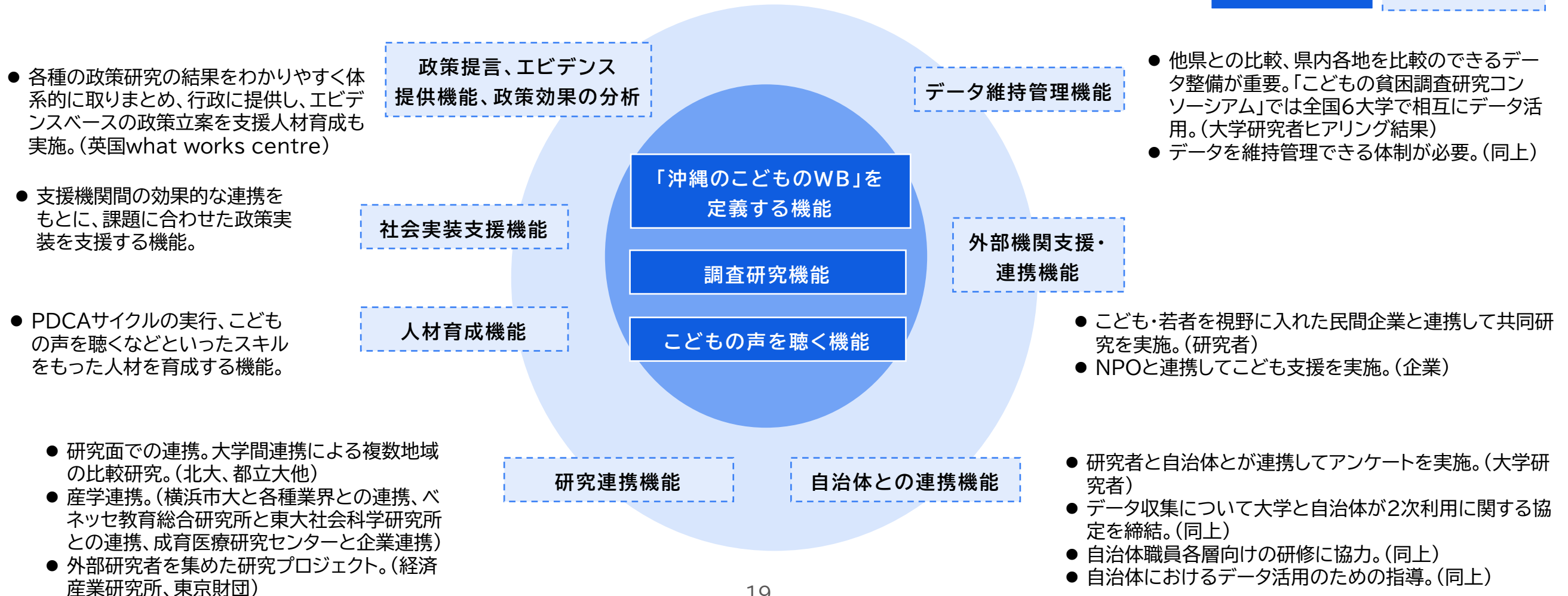
3-2. これまでの協議体のまとめ ニーズ(論点③)

- 期待される研究テーマとして、取組の好事例の紹介、地域間のデータ比較、こどもや家庭のデータの活用のための行政各部署の連携等を求める声があった。関係機関(自治体、学校、NPO等)と研究者が連携しつつ、こどものウェルビーイングを高めるPDCAサイクルを作ることが必要である。

分類		ご意見例
沖縄のこどもにとって大切なこと		● 子どもたちが健康に成長して市内に働く場所があること。子どもたちが目標をもって、壁にぶつかりつつも成長すること。 ● こども本人が自分で選んで決定できるものが揃っていて、自己固定感、自己決定館があること。 ● こどもが「自分のことを見てくれている人がある」と実感できること。 ● こどもがイキイキと暮らせる社会。そのために、体験格差がない。等
研究テーマの構成について		● 基本的なファクト、ウェルビーイングの「構造分析」(研究テーマ例の2番目のカテゴリー)が重要であり、そのために「データ」(同3番目)が必要。その結果を受けて支援体制(1番目)を検討する流れがよいのではないかと。
期待する研究テーマ	困っている層へのサポートの仕方	● 困っている層に負担感や抵抗感を感じさせずに支援を届けることは共通の課題。保護者がシャットアウトすると先に進めない。 ● こどもと大人に過去を振り返ってもらい、声を聴きたい。こどもと親の思いには違いがあるだろう。振り返ってもらうことで適切な介入のタイミングもわかるかもしれない。
	ウェルビーイングの構造分析	● こどもをとりまくリスク、課題の構造的なつながりを可視化していただけるとありがたい。
	教育・福祉・保健医療にまたがるデータ分析	● 健康指標との関係性を分析してほしい。 ● 教育・福祉・保健にまたがるデータ分析が進んでいない。何が見えてくるか、期待したい。セクションをまたがると個人情報管理の面で難しい。
	ネット社会、子ども社会の変化	● 親世代と子どもの世代では違う。スマホの影響について構造を明らかにしてほしい。 ● 外遊びが減っているという問題がある。親が仕事で家にいない。
	思春期のこども、県内地域特性等	● 思春期のこども(中学卒業以降)について現状把握が難しくなり、支援が途切れてしまうのが全国的な課題。 ● 県内の都市部と離島部の違い等の分析が進んでいないので、現状分析を期待したい。
他に必要な研究テーマ、その他の指摘		● 取組の好事例を紹介してほしい。 ● 地域間のデータ比較ができるとよい。全国共通・沖縄県共通・市町村独自の設問という構成のデータがあるとよい。 ● 行政の各部署にこどもや家庭のデータはあるが、横断的な活用はされていない。データ現状や活用可能性の検討を研究者と一緒にできるとよい。予算確保にあたって、横の広がりをもったデータが活用できるとよい。 ● データ活用、分析等について指導いただけるとありがたい。 ● 「またここに戻ってきたいか」という指標があるとよい。生きづらい状況のこどもは勇気をもって島を出てほしいとも思う。

3-2. これまでの協議体のまとめ 機能(論点④)

- 政策研究を現場で生かすための機能を、必須機能・オプション機能に分けて整理した。必須機能としては、「沖縄のこどものWB」を定義する機能、調査研究機能、こどもの声を聴く機能が考えられる。その他、オプション機能として、研究テーマに応じて随時追加で設定する機能が必要と考えられる。
- R8年度以降、研究テーマ案とあわせて詳細な検討を進める必要がある。



4. 今後の検討課題(論点⑤)

- 今後の検討課題として以下のようなことが考えられる。
 - 沖縄のこどもにとって大切なことの引き続きの検討
 - 沖縄の特徴の調査による研究テーマの選定・深掘り

沖縄の特徴把握のための次年度以降の課題(順不同)

- ① 地域別(北部・中部・南部・離島)の沖縄県内の状況調査
- ② デジタル環境がこどもに与える影響の調査
- ③ ひとり親家庭の調査および対策の検討
- ④ 政策実装への検討

等

※ヒアリング調査を中心に実施を想定

※R8年度に実態把握調査、対策の検討、政策実装への検討、調査テーマの選定・深掘りの実施を想定。

参考資料

ウェルビーイングの考え方

● 「ウェルビーイング」とは

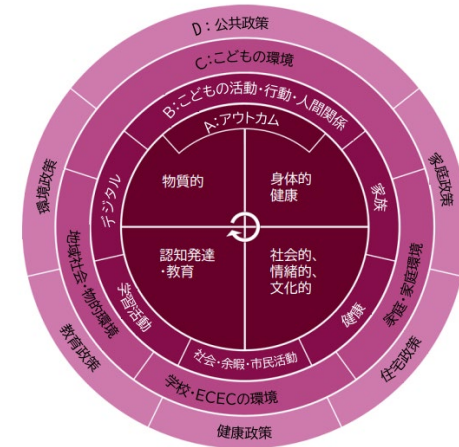
- 「ウェルビーイング」: 身体的・精神的・社会的に満たされた状態を指す。(WHO定義)
- 「ウェルビーイングの考え方」: こどもの「ウェルビーイング」に影響を与える要素を整理すること。
「こどものウェルビーイングの考え方」では、関連する要素が多層的に表現されることが多い。

- 例) こどものウェルビーイング測定の概念的フレームワーク(OECD) *

*OECDでは、「ウェルビーイング」を中心に据え、それに関連する要因(こどもの活動、家庭環境、学校環境、地域社会等)を体系的に整理したものを、「こどものウェルビーイング測定の概念的フレームワーク」と定義している。

● 沖縄におけるこどものウェルビーイング向上の実現に向けて

- 沖縄のこどものウェルビーイングに関連する要素を体系的に整理し、多方面からアプローチすることで、沖縄におけるこどものウェルビーイング向上の実現を目指す。
- 要素の整理にあたっては、以下の2方向からのアプローチが有効と考えられる。
 - 沖縄のこども・文化の残したいところ、よいところ、目指すところ
 - 沖縄のこどもを取り巻く課題



【構成員アンケート】沖縄のこどもにとって大切なこと・目指すべき状態①

- 構成員アンケートでは、「沖縄のこどものウェルビーイングを考える上で一番大切なことや、目指すべき沖縄のこどもの状態」として、以下のようなご意見をいただいた。
- 最も意見が多かったのは、「こどもが将来に夢を持ち自分らしく成長すること、自己肯定感」であり、こども本人の希望が叶えられる環境を整えていくことに関するご意見を多くいただいた。

カテゴリ	ご意見(抜粋)
こどもが将来に夢を持ち自分らしく成長すること、自己肯定感	こども自身で自らの望む将来を選べ、そこへ向かって努力できること。
	沖縄のこどものWANTSとNEEDsを踏まえた対策をとること。将来に夢を持ち、そのために頑張ることができること
	全てのこどもが、必要なものが手に入り、当たり前ことができ、生き生きと暮らしている状態
	育つ環境が違っていてもすべてのこどもが、自分の人生を設計し、それに向かって歩むことができる。
	沖縄の子どものよいところを見つけ、そこをもっと伸ばせるような環境にいられること。
	まずは本人が幸せと感じているという主観的な要素、それとともに、それを支える周囲の環境がきちんと整っているか(親、先生、友人たちとの関係、家庭の経済状況、学校の十分な学習や体験機会の確保、地域のサポート体制など)
	こどもが自分自身を大切にしながら、自分らしく生きられる。大人にとってもこどもの成長を楽しみに見守ることができる。そのための環境を、家庭・学校・地域・社会全体で整えることが重要と思われる。
	沖縄の子どもたちは、親族や友人といったやさしいコミュニティに囲まれていて、それが社会生活の中でも続いていてきた。しかし、沖縄県こども調査でも示したように、現実の社会はコミュニティーが崩れつつあり、学校内でも孤立があったり、親が親族や地域から疎遠になるなど将来の不安は増している。そこからしっかりと自分を強く持つていくための自尊心の高さが問われている。自分を大切にしつつ他とも切磋琢磨して社会課題に挑んでいく「確立した個」同士が結び合うことが目指すべき状態ではないかと考える。
	全国、世界の子どもたちと違いはなく、自身が幸福と感じる、自己肯定感を持っている状態だと考えます。

【構成員アンケート】沖縄のこどもにとって大切なこと・目指すべき状態②

- 構成員アンケートでは、「沖縄のこどものウェルビーイングを考える上で一番大切なことや、目指すべき沖縄のこどもの状態」として、以下のようなご意見をいただいた。
- その他、「こどもの周りの大人の関わり方」「安心・安全、人権、生活保障」「現状・課題の把握・分析」に関するご意見をいただいた。

カテゴリ	ご意見(抜粋)
こどもの周りの大人の関わり方	こどもだけでなく家庭や地域を含めた応援(支援)体制を充実させ、親がウェルビーイングを実現し、それがこどもの精神的安定や幸福感に繋がり、地域全体で子育てを応援し、こどもたちが夢や希望を持ち、自分らしく安心して成長できる社会の実現を目指す必要がある。
	こどもの周りの環境である大人の在り様。「家庭」「学校・保育所・施設」「地域社会」の構成員である大人が、こどもを励まし、一人一人の良さや可能性を伸ばしていけるような環境となることが大切となる。
	沖縄のこども本人は無論、こどもの親(すなわち家族)が一体として幸せを感じている状態が最終的に目指すべき状態と考える。
	こどもの貧困率を改善させ、貧困の連鎖を断ち切るとともに、こどもに関わる大人(親や教師)のウェルビーイングを向上させるためのケアやヒアリング等を実施することが、ウェルビーイング実現に向けた一歩になると考える。
安心・安全、人権、生活保障	どのような生き方を選択しても(学校教育に適応できなくても、働けるのに働かなくても)、最低限の生活が保障される社会を作ること。
	県内のどの地域に住んでいてもこどもが安心・安全に生活ができ、こどもの人権が守られている状態。
現状・課題の把握・分析	沖縄独自の環境、文化が及ぼす影響を意識した上で、沖縄のこどものウェルビーイングを考える必要がある。
	現状の課題、特に様々な支援施策の連携が十分に行われていないという実態について、なぜ、そのような実態が継続しているのかについての原因の特定と、その解決に向けた具体的策の構築。
	何が「万人に保障される最低限のニーズ」と認められるのかを、様々な実証研究から明らかにする必要がある。社会調査法の観点からは不十分なものも少なくないため、社会調査法や統計学に精通した専門家を必ず複数名入れて、実態把握に向けた調査研究を展開することが重要。
	沖縄ならではの種々の問題(貧困、若年出産、保護者の離婚率の高さ、離島の子どもたちの15の春等)を解決することが大切。
	沖縄の方々が納得して決めるプロセス。できればそこに子ども・若者・保護者の意見も入るとよりよい。

【構成員アンケート】取り組んでほしい研究テーマ

● そのほか取り組んでほしい研究テーマがあれば教えてください。

- 他自治体や全国と比較ができる「共通の指標」があると客観的な評価が可能になる
- 親と子のウェルビーイングの関連という意味で、幸福を感じていない親に対して、自分のこどもの頃を振り返ったり、自身のこどもにどのような環境を作っているかやその背景等をヒアリングし要因分析を行う
- こどもは自身が幸せと思っているのか、その割合はどれくらいか、なぜ幸せと考えているのか、こどもの考えるウェルビーイングと我々の考えるウェルビーイングのギャップは何か、そのギャップを埋めるためにこういった活動をすれば良いのかという研究
- 児童虐待、ACE、社会的養護およびその経験者(いわゆる虐待サバイバーやケアリーバー)に関する調査。パネルであればより望ましいが、難しければ、たとえば児童福祉の行政データと、成人後の福祉や社会保障に関する行政データとをドッキングして分析することができればよいのではないか。
- 沖縄のシングルマザーにアンケートを実施し、前向きな回答があった者についてヒアリングを行い、その背景を分析する。
- アンケートで幸福だと答えた沖縄のこどもについて、そう感じる理由を聞く。
- アンケートで自分に自信があると答えた沖縄のこどもについて、その自信の根拠を聞く。
- 小規模離島のこどもたちは中学校を卒業すると親元を離れて生活をせざるを得ない。家族力の弱さ、卒業後の生活支援の必要性、高校中退率の高さなどから、必要な支援の検討が必要。
- ポジティブ・デビエンスの手法で、新しい知見が得られる可能性がある。ただし、どのような成功事例を取り上げるのが課題である。
- 沖縄の社会課題に取り組む子どもたちを育成するスクール(中学・高校の出席扱い)を開催し、その成果をみる。将来的にはそのカリキュラムを高校の課程としていくような実践研究
- 学外で自由な発想をぶつけ合い、自分で考えた課題に取り組むユースセンターの運営実証研究

【文献調査】沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題の整理①

- 沖縄のこどもの課題は、その内容によって分類すると、「家庭」、「学校・保育所・施設」、「地域社会」、「その他」の4つの大分類と15の小分類となった。
 - こども自身が課題の原因にならない場合、こどもの環境がこどもに影響を及ぼすと思料した
 - 「こどものウェルビーイング測定の概念的フレームワーク(OECD)」では、こどもの環境(レベルC)として、「家庭・家庭環境」、「学校・ECECの環境」、「地域社会・物的環境」と設定されている

➤ 課題の大分類・小分類と考えられる課題

※ 課題を分類する場合には、複合的なものも含まれる(例: 家庭環境に起因する学校での課題等)が、ここでは課題の主たる対象を基準に便宜的に分類した。

家庭

- 食事・健康
- 医療アクセス
- 親の困難
(離婚・ストレス・虐待・ネグレクト・経済状況・就労状況・無関心)
- 住居・近隣地域の問題
- 自覚・自己肯定感

- ・ 低所得層に対する食育や運動の推進・支援
- ・ 受診抑制を減らすための医療政策課による計画との整合性や小児科医の確保の充実
- ・ ひとり親家庭や経済的な困窮家庭における親のダブルワーク・トリプルワークの解消方法の必要性
- ・ 家事援助ヘルパーやアウトリーチ型の家庭相談の充実等、低所得世帯が頼れる相手の検討
- ・ 経済状況での格差が生じずコミュニティの活性化にもつながる地域イベントの各地域での開催・参加促進による体験・経験の地域間格差の解消の必要性
- ・ 貧困状態や虐待やヤングケアラーに関するこどもの自覚の必要性についての検討、(親子への)こどもの権利の周知

【文献調査】沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題の整理②

➤ 課題の大分類・小分類と考えられる課題

学校・保育所・施設

- 学力・学習支援・キャリア教育・ライフプラン教育
- 進学・就学支援・就労支援・自立支援
- インクルーシブ（障害・病気・外国人等の受入態勢）
- 保育・教育現場の制度・体制
- 保育士・教職員以外の支援者の制度・体制

- ・ 発達段階に応じた学校等でのキャリア教育や職業観の育成、就労意識の向上に資する方法の検討および実行
- ・ 困難や課題を抱えるこどもの様々な背景・要因が重なり複雑化している場合の専門的なアセスメントやケア・支援、親への包括的な支援
- ・ 進路未決定や中途退学に繋がる複合的な背景をもつ生徒に対する、早期段階での積極的なアウトリーチによる支援の必要性
- ・ 発達障害や発達が気になるこどもに対する発達段階に応じた高い教育・保育を提供できる体制整備
- ・ 教職員の多忙化・過負担による疲弊への対策
- ・ コミュニティソーシャルワーカー、ファミリーサポートセンター等自治体を基盤とした家庭支援の拡充・周知の徹底

地域社会

- 居場所（サードプレイス）（学童・こども食堂等）
- 歴史・文化・価値観（集団意識）
- インターネット・SNS・ゲーム利用

- ・ 居場所を失う可能性のあるこどもへの就学時前からの予防と既に居場所を失い問題が複雑化した中高生へのアプローチの強化に関する必要性
- ・ 親の状況や親の価値観の刷り込み（早婚・若年出産等）に対して物事を適切に判断する力の低学年からの涵養
- ・ こどもの居場所の運営支援の継続・発展等により「体験格差」を埋めるなど低所得層であっても将来の選択肢を狭めない時間の使い方ができる施策の必要性

その他

- 行政手続き・周知
- データ不足

- ・ 生活保護取得基準に関する沖縄県の地理的背景（車の必要性等）を考慮した見直し
- ・ 量的・質的研究における学術的なデータや検討の充足

【ヒアリング】沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題の整理①

- ヒアリングにて得たご意見・ご指摘を、文献調査による課題の4つの大分類(家庭、学校・保育所・施設、地域社会、その他)で整理した。

➤ 課題の大分類・小分類とヒアリング結果の整理(抜粋)(1/4)

家庭

- 食事・健康
- 医療アクセス
- 親の困難
(離婚・ストレス・虐待・ネグレクト・
経済状況・就労状況・無関心)
- 住居・近隣地域の問題
- 自覚・自己肯定感

- ・ 歯医者への通院が課題。受診へのハードルは金銭的問題ではなく、「病院に行かなくてもなんとかなる」という親の意識。歯医者への継続的な通院がこども一人では難しく、学校の歯科検診の結果をこどもが親に渡さないという状況も見られる。
- ・ 沖縄では、鼻水等の非常に軽微な症状で夜間診療を受診する親が多い。地域によっては小児医そのものが減っており、ニーズが過剰となっている。診断書がないと登園させない保育園が多いため、仕事のために親が仕方なく受診している側面もあると聞く。
- ・ 親も困っていることが根底にあり、情報が無い、相談できる人がいないといった課題がある。
- ・ こどもだけでなく保護者の支援についても考える必要があり、そのためには教育・福祉だけでは支援は難しく、医療・保健や司法、心理等様々な分野の学際的な連携が必要。
- ・ 親を含めた「家族丸ごと支援」や18歳までの支援をどのように行うかが重要
- ・ 経済上・生活上の格差と学力の格差の連動、実感として特に体験格差が大きく、ラーケーション事業等の仕組みを活用できる家庭とできない家庭に分かれ、さらに体験格差が広がるのではないかと懸念する。
- ・ 本人たちがどうしたいかを中心に支援すべき。ヤングケアラーの問題などはこどもの権利のはく奪につながることになる。
- ・ 自己肯定感が低いまま社会に出ると、自己肯定感が低い者同士のコミュニティができやすく、よくない連鎖を生むこともある。そこに必要なのが知識。
- ・ こどもの権利の保障や健康、自己効力感といったこども全般として幸せのために、貧困対策と平行に検討を進めなければ、適切な方向性にならない

【ヒアリング】沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題の整理②

➤ 課題の大分類・小分類とヒアリング結果の整理(抜粋)(2/4)

学校・保育所・施設

- 学力・学習支援・キャリア教育・ライフプラン教育
- 進学・就学支援・就労支援・自立支援
- インクルーシブ(障害・病気・外国人等の受入態勢)
- 保育・教育現場の制度・体制
- 保育士・教職員以外の支援者の制度・体制

- ・ 家庭教育の脆弱さがあり、就学時時点ですでに差が発生している。発達障害等の特性は幼稚園や保育園のこどもでも存在するが、特別支援学級で支援を受けていないため、就学前の段階でフォローできていない。外国籍のこどもについても同様。
- ・ 学習支援の場にくる子は自ら意欲があり支援を受けられるが、その前段階の(意欲を持てない)子は、学校に行かないために学習支援も受けられず、さらに学校に行きたくなる状態になる。
- ・ 塾に来ることのできないこどもこそフォローが必要。民間組織には専門性に限界があり、各分野の専門性と連携体制を組む必要性がある。
- ・ 進路未決定者や中途退学者は、沖縄は全国の2倍いるとされている。学校卒業後に支援が途切れる課題があり、学校卒業後も考慮して次の進路につなげる支援が必要。
- ・ 学校にいる間は学校(教育)が支援できるが、放課後のこども(福祉)の様子を知る機会が乏しい。行政の社会福祉課、児童福祉等には情報があるが、学校側とうまく共有されていない。放課後に支援する体制に課題がある。
- ・ 教育分野はアウトリーチが苦手であり、福祉分野のように方法が確立されるとよい。
- ・ 困難を抱える生徒を見つける「スクリーニング」を行っている学校は少なく、かつ本島南部に限られる。他地域にどのように広げていくかという点が課題。
- ・ 無業者の割合の高さに対して、企業側が求める人材と、実際にこども・若者ができる仕事をすり合わせる必要があると考える。
- ・ 学校ごとにスクールソーシャルワーカーへの理解度の差異がある。現場側(校長や教師)とのコミュニケーションと連携が必要。
- ・ 離島では幼稚園はあるが保育園がない場合があり、大半の保護者が預かり保育を希望するが、支援員が不足して受入れできない状況がある。一方で、支援員を募集するとしても住居がない等の問題がある。また、住居は担当部署が異なるため横断的な連携が必要。

【ヒアリング】沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題の整理③

➤ 課題の大分類・小分類とヒアリング結果の整理(抜粋)(3/4)

地域社会

- 居場所(サードプレイス)(学童・こども食堂等)
- 歴史・文化・価値観(集団意識)
- インターネット・SNS・ゲーム利用

- ・ 居場所に来るこどもの保護者は、学校・行政との関係が良好ではない。民間団体という立場は保護者との関係性が取りやすいため、保護者の情報や課題を関係機関につなげる取組をしている。
- ・ 沖縄も都市化・少子化が進んでいるが、「ゆいまーる(助け合い)」という言葉があるように文化性としては血縁・地縁の強さはあり、それが故に支援がし難い、マイナス面での世代間連鎖といった課題もある。文化も踏まえて、支援者は家庭に入っていく必要がある。
- ・ 若年時の出産が多いことの背景には、「なんくるないさ(なんとかなる)」という文化もあり、こどもが生まれること自体は悪いこととは思わないが、若年の妊産婦への早期支援や性教育の重要性、若年妊産婦の子どもへの手厚い支援等を実施する必要がある。
- ・ 都市部でも親の周囲とのつながりが密接な地域もあるが、孤立した親が多い問題は、新しい住宅街のある地域や都市部において傾向が強いと感じる。
- ・ 離島では1人ひとりがよい意味で目立っている。何をしてもほめてもらえる状況にあり、自己意識が比較的高い印象がある。一方で、島を出るとレベルの高い子がいて心が折れてしまう事例も過去にはある。高校進学後の集団授業を見据えた校外学習を行っている
- ・ 沖縄は車社会であるため、通学がこどもの運動不足解消には効果がない。少しの距離でも車で移動するという車社会のため、親がまず運動しないという側面がある。
- ・ 沖縄では、歩道の整備も十分でなく、安心してこどもが徒歩で通学できる環境が整備されていないと指摘する人もいる。
- ・ 一度離島から本島・内地へ進学等で流出した子どもたちが、沖縄に戻ってきたいと思うような対策が必要だと考える。
- ・ スマートフォンの見過ぎで視力が弱く、板書ができないこどもが多い。また、両親不在であるためにスマートフォンの長時間使用になる。読解力や語彙力の低さにもつながっていると考えている。

【ヒアリング】沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題の整理④

➤ 課題の大分類・小分類とヒアリング結果の整理(抜粋)(4/4)

その他

- 行政手続き・周知
- データ不足
- その他

- ・ こどもと対する現場としては、こどもを追跡調査し、どのようなときに幸福だと思ったか、どのような支援から環境が改善したのか等の分析結果があれば、より効果的な判断ができるようになる。
- ・ 将来的には、今後の離島政策に向けて、離島の全数調査を提言するような内容を示せるとよい。
- ・ 小児医療において、国全体や県全体のデータがあまり取得できていないことに困っている。
- ・ 沖縄の地域によっては世帯間格差が大きく、どの地区に貧困対策として注力するかの検討が必要。
- ・ 貧困対策支援の確保が困難な地域は多い。予算が限られる中で、対策として、オンラインでの支援や企業と連携したメタバースの取組もある。
- ・ 困っている人と支援する側のマッチングが必要。予算をかけて支援メニューを整備されているが、必要な人に届いていない。
- ・ 沖縄の計画に含まれていない事項については対策のための財源等を検討する必要があるのではないか。
- ・ 研究だけで終わるのではなく、実務では各地域で本当に機能するかの事後評価まで実施したうえで政策として正しいかの判断を行う必要がある。
- ・ 支援にあたりこどもの個人情報をどこまで開示するかが難しい。開示してもらえない場合もある。
- ・ 行政担当者が短期間で異動するため、現場担当者のこれまでの情報共有がゼロになり、事業や話が進まない。

【まとめ】沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題の整理

- 文献調査で把握した沖縄の現状課題から抽出した説明が求められる事項について、ヒアリングでも同様の内容が確認された。

説明が求められる事項(例)

家庭	学校・保育所・施設	地域社会	その他
(例1) 困難を抱える家庭におけるこどものWB向上方策 ・どの要素を向上させるべきで、何をすべきか ・教育・福祉・健康医療(保健)・その他の分野横断的な取組のあり方 ・困難な状況のこどもの見つけ方、意見を聞くための仕組みづくり 等	(例3) 個人に適した支援の在り方及び情報共有の方法・仕組みの定型化の方策 ・学校(教育)と放課後の居場所(福祉)における情報共有の方法・仕組みの定型化 ・ライフステージで連続した情報共有の方法・仕組みの定型化(医療-教育・福祉) ・個人の特性や環境、状態に合わせた適した時点・適した方法での支援の在り方及び方法・仕組みの定型化 等	(例5) 沖縄の社会文化的特徴(意識)の把握、それを踏まえた取組のあり方 ・社会文化(人々の思考スタイル等)の特徴を踏まえたこどものWB向上方策 ・活かすべき文化、改善が求められる文化 等	(例7) 沖縄のこどものWBに関するデータ基盤・学術研究のエコシステム構築 ・全国と比較可能な沖縄のデータの収集・研究 ・学術研究にも活用可能なエコシステム 等
(例2) 親とこども両面からみた短期的・中長期的なこどものWB向上の方策 ・親を含めた教育活動(体験や成長モデル、将来展望の共有、こどもの権利)のあり方 等	(例4) 教師のWBを踏まえたこどものWB向上方策 ・教師自身のWB ・教師から影響するこどものWBの関係 等	(例6) 現在起きている変化に合わせたこどものWB向上方策 ・都市化による地縁の薄れ、少子化、住宅状況、コロナ禍以降の変化といった変化を踏まえたあり方 ・将来予測される状況・変化を踏まえたあり方 等	(例8) 支援実現の方策及び仕組み・意思決定方法の構築 ・産業界(民間企業)との連携を含めた支援実現(サービス利用やマッチング等)の方策 ・方策の実証・実装・運用・評価の仕組み構築 ・地域に合わせた運用方法の構築及び意思決定方法の構築 ・民間団体の活用 ・支援機関間連携、既存の縦割りを越えた検討の必要性 等

【まとめ】沖縄のこどものWB向上のために説明が求められる事項、求められる知見

- 求められる研究スタンスとしてデータに基づく分析が重要。検討の進め方として、こどもの声の解析、目標設定の検討も重要。

	研究の基本方針	沖縄のこどものWBの構造説明	効果的なサポートのあり方の説明	サポート供給体制、その他
協議体でのご意見より	【A1】 (求められる研究スタンス) データに基づく分析の必要性 【A2】 (研究の視点) 検討の進め方(こどもの声の解析、目標設定、バイオ・サイコ・ソーシャル等)	【B1】 ・こどもの成長、長期的にみたWBの視点、キャリア形成に係る問題 ・(沖縄における問題点)幼少期からのキャリアビジョン形成の課題 【B2】 こどもに関わるおとな、支援者のWBの向上のあり方	【C1】 ・サポートの仕方の改善方策 ・(沖縄における問題点)支援の仕方の工夫の必要	【D1】 サービス供給体制、関係機関の連携、職員の人材育成、ウインウインの仕組構築のために
文献調査・ヒアリング調査より		【B3】 親とこども両面からみた短期的・中長期的なこどものWB向上の方策 家庭 【B4】 教師のWBを踏まえたこどものWB向上方策 学校・保育所・施設 【B5】 沖縄の社会文化的特徴(意識)の把握、それを踏まえた取組のあり方 地域社会	【C2】 困難を抱える家庭におけるこどものWB向上方策 家庭 【C3】 現在起きている変化に合わせたこどものWB向上方策 地域社会	【D2】 個人に適した支援の在り方及び情報共有の方法・仕組みの定型化の方策 学校・保育所・施設 【D2】 支援実現の方策及び仕組み・意思決定方法の構築 その他 【D3】 沖縄のこどものWBに関するデータ基盤・学術研究のエコシステム構築 その他

【研究テーマ例】①現在、顕在化している問題点に対応するテーマ

- 支援者間の連携、困っている層への支援等については、協議体やヒアリングで多くご意見があり、対応が必要ではないか。

①現在、顕在化している問題点に対応して解決策を見出すためのテーマ例(支援体制のあり方の検討)

【凡例】A1,A2等の記号は前掲の図との対応を示す

把握したい事項(ニーズ)	研究テーマ例	問題意識、アプローチ例
支援者間での連携を効果的に進めるにはどうしたらよいか D1 D2	支援機関間の効果的な連携方策に関する研究 【趣旨】支援者間での情報連携、こどもへのサポートのつながり等の面で課題があり、解決が期待される。	● <u>こどもに関する情報を</u>、簡易かつ個人情報管理をしつつどのように共有するか。 ● <u>こどもに連続した対応をするため</u>、例えば、学校と居場所との連携をどう進めるか。 ● 最適な支援に向けた<u>支援組織間の連携、の分業体制の見直し</u>。等
困っている層への支援の仕方をどう改善できるか C1 C2	サポートの仕方の改善方策に関する研究 【趣旨】支援が必要な家庭にどう支援を届けるか(不要と言われてしまう問題等)、体験格差、精神的な面での対応等どのようなサポートが有効かの説明が期待される。	● 困っている層における<u>各種問題の構造、関係の分析</u>。 ● 困っている層に<u>負担感や抵抗感を感じさせずに支援を届ける方法</u>を解明。 ● 教育・福祉・保健分野にまたがった支援策について<u>実験的アプローチ</u>も含めて検討。
こどもの声の把握、活用をどう進めるのが効果的か A2	こどもの声の把握、対応の方策に関する研究 【趣旨】こどもの意見(view)を聴く取組は全国では始まっているが、模索段階にある。どのように声を把握し、対応を進めることが有効かの説明が期待される。	● <u>こどもの声の把握</u>に関する有効事例の検討、実験的アプローチ。 ● <u>こどもの声への対応</u>に関する事例調査、政策や現場での取組への活用方策の検討。 ● <u>新技術の活用(例:表情や声のAI解析技術)</u>の可能性を視野に入れた研究も期待される。
バイオ・サイコ・ソーシャルの横断的な問題把握 A2	バイオ・サイコ・ソーシャルにまたがる分析 【趣旨】バイオ・サイコ・ソーシャルの観点でこどもを複層的に捉える分析が発展途上のため、今後研究を強化し、課題や対策の検討につなげることが求められる。	● バイオ・サイコ・ソーシャルにまたがる視点での実態を把握し、解決の方向性を見出す。 ● 困っている層において健康診断の受診率が低い等の問題がある。貧困状況による健康格差、体験格差等も指摘されている。

【研究テーマ例】②長期的な政策の方向性を考えるためのテーマ

- 沖縄のこどものWBの構造について未解明の部分を解明し、政策検討の基本的知見として活用することが求められるのではないか。

②長期的な政策の方向性を考えるために、基本的なファクトを把握しておきたいテーマ例(沖縄のこどものWBの構造解明)

把握したい事項(ニーズ)	研究テーマ例	問題意識、アプローチ例
沖縄のこどもが大人になるまでの成長過程を見通して、望ましい対応は何か B1	こどもが大人になるまでの発達過程の長期的なWBの変化や要因、キャリア形成のあり方の研究 【趣旨】現状、沖縄のこどもの主観的幸福度は比較的高いが、大人への発達過程全般を見通した場合に課題がある可能性がある。発達過程全般にわたる検証が求められる。	● 沖縄のこどものWBが大人への発達過程においてどのように変化するか、その要因は何か、同一集団を10年以上継続的に調査し、解明することが有効ではないか。 ● 短期的には、大人になった人にこども時代を振り返ってもらい、WBに影響する因子を抽出するアプローチが考えられる。 ● 現状、教育・福祉・保健にまたがる同一年出生集団(コホート)の研究事例は少ない。
こどものWB向上のためにおとなのWB向上をどう進めるべきか B2 B3 B4	こどもに関わるおとなのWB向上方策の研究 【趣旨】こどもに関わる大人の幸福度が上がると子どもの幸福度もあがることがわかっている。こどもに関わる大人のWBをいかに向上させられるかの解明が求められる。	● こどもに関わる大人(保護者、教師、支援者等)のWBが高いとこどものWBも高まる傾向がある。大人のWBの因子については各種の研究がある。 ● こどもに関わる大人のWBを向上させるために何が重要か、政策的対応の可能性はないか等を解明することが求められる。
他県とは異なる沖縄の社会文化の特徴は何で、こどものWB向上にどう生かすか B5	沖縄のこどもに関わる社会文化的特徴の研究 【趣旨】沖縄には他県とは社会文化がある。その特徴を把握するとともに、沖縄のこどものWB向上のために必要な対応の検討に活かすことが求められる。	● 例えば、ゆいまーるの文化、なんくるないさーの文化、離島性、産業構造に基づくメンタリティ等の特徴は、現在も続いているか。どのように変化しているか。 ● 沖縄のこどものWB向上のために、沖縄の社会文化の特徴をどう踏まえて対応すべきか。

【研究テーマ例】③政策の効果・評価のためのテーマ、データ基盤整備

- こどものWBの状況把握、政策効果把握等のためにデータ基盤整備が求められるのではないか。

③沖縄のこどものWBの状況把握、政策効果把握等に関わるテーマ例(データ基盤整備)

把握したい事項(ニーズ)

研究テーマ例

問題意識、アプローチ例

沖縄のこどものWB
の基本的なデータ整
備

A1 D3

沖縄のこどもWBの定点把握

【趣旨】沖縄のこどもWBの基礎データとして定点的に調査を行い、様々な分析に活用することが求められる。

- 沖縄県庁において実施しているこどもの実態調査を定点調査化し、時系列的な変化、各種層別の比較検討等の分析のベースとすることが考えられる。
- それとは別に、教育・福祉・保健にまたがるこどものデータを収集・蓄積・分析する仕組の検討が考えられる。

沖縄のこどものWB
の指標体系の作成と
政策評価に活用でき
るデータ基盤の整備

A1 D3

沖縄のこどもWBの指標体系の作成

【趣旨】沖縄のこどもWB実現を目指すにあたり、WBの指標体系を作成し、各種政策がWBにどのように貢献したかを把握するための基本データとする。

政策の効果、政策の評価のための研究

【趣旨】沖縄のこどものWBへの貢献を目標として、各種政策の貢献状況の把握、より効果的な推進方策の検討を行うことが求められる。

- こどものWBに関する各種指標体系を参考にしつつ、沖縄において重視する観点を加えて、WBの指標体系を作り、それに基づく定点調査、政策効果分析等に活用することが考えられる。
- こどものWBに関する各種指標体系の作成と合わせて、政策の効果分析を行い、政策の改善に活用することが考えられる。

【研究テーマ例】④その他

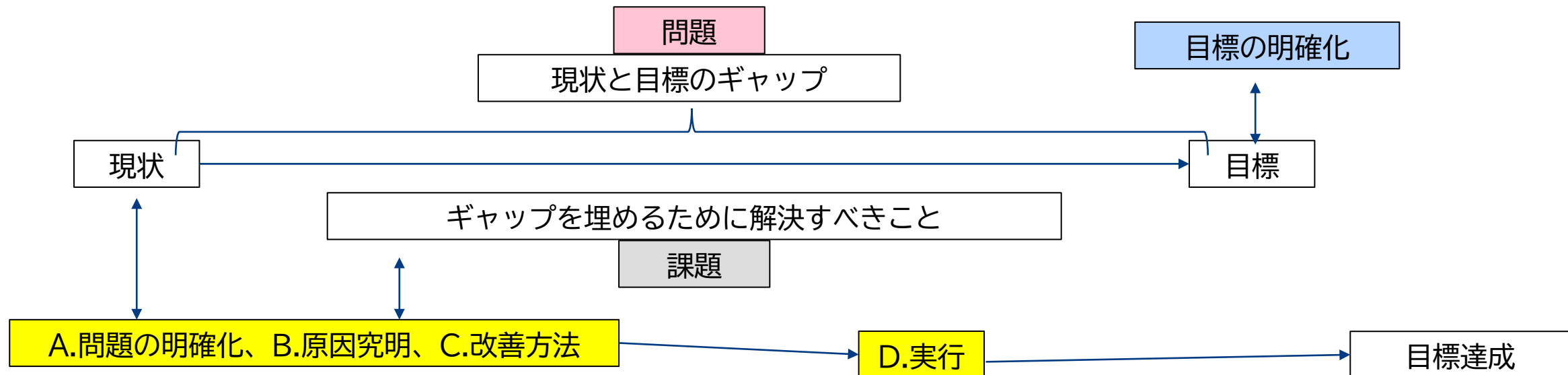
- 民間主体によるWB向上の可能性研究、最新トレンドへの対応、研究戦略の立案のための研究等も求められるのではないかな。

④その他(民間主体、最新トレンド、研究戦略)

把握したい事項(ニーズ)	研究テーマ例	問題意識、アプローチ例
民間主体によるこどもWB向上をどう実現するか D4	民間主体によるこどもWB向上への貢献手法の可能性、効果的な手法に関する研究 【趣旨】民間の支援団体、民間企業の活動、地域の活動等、行政だけでなく各種主体による効果的な取組の可能性を探り、民間主体の活動に活かすことが求められる。	● こどものWB向上のためには、行政による対応だけではなく、民間主体の役割が大きい。民間主体における取組の可能性についての研究は発展途上である。 ● 民間主体があまり負担を感じずに、こどものWB向上に役立つ活動ができるような共助モデルを見出すための研究が必要ではないか。(例:時間や場所の活用、シェアハウス等)
最新トレンドにどう対応するか C3	ネット社会の影響と対策に関する研究 【趣旨】SNS等の普及はこども社会に多大なる影響を与えているが、その実態は十分解明されていない。最新トレンドにタイムリーに対応した研究が求められる。	● こども社会の意識に大きな影響を与えているSNS等について最新の状況を把握し、影響の分析、対応のあり方の検討を行う。 ● 地域での取組に留まらず、国の規制等のあり方の検討も必要となる可能性もある。
こどものWBに関する研究戦略立案のための研究 前掲図にないが、全体に関わる	こどもWBに資する研究動向サーベイと情報提供、研究戦略の立案のための研究 【趣旨】こどもWBの実現に向けて参考となる知見を常時収集し情報提供することが求められる。また、研究戦略の立案のための研究が求められる。	● こどもWBに貢献する既存の知見、研究動向をマッピングし、分野横断的に研究動向をサーベイするとともに、その結果を関係機関に解説とともに情報提供し、活用を促す。 ● 沖縄のこどものWB実現に向けて特に研究が必要とされるテーマを検討するため、沖縄の現状、国内外の研究動向等を勘案して研究戦略を立案するための研究を行う。

研究テーマ設定のフロー

- まず、沖縄における「こどものウェルビーイングの考え方」のあるべき姿を明らかにし、その現状と目標のギャップを埋めるための課題を特定する必要がある。
- そのうえで、研究テーマを設定し、そのために必要な機能を検討していくことが求められる。





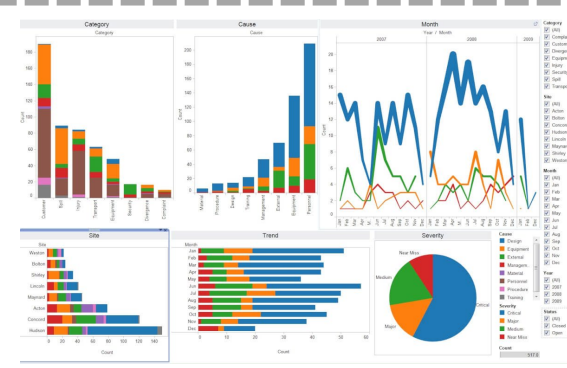
既存調査・行政データ
琉大のプロジェクト
本プロジェクト成果物
+
こどものこえ
各種データ収集



- ・データ連携/連結
- ・こどものBPS*の状況の実態把握
- ・施策評価

*BPS: Biopsychosocial

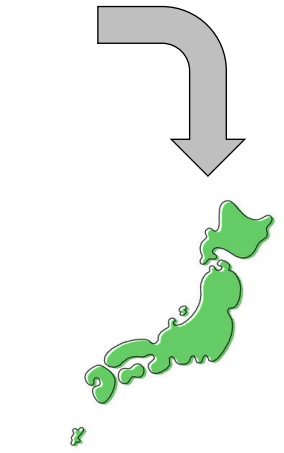
こどもたちのWell-beingを
高めるPDCAサイクル



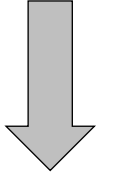
解決すべき課題設定
進捗の共有・議論
合意形成・意思決定



政策・事業実施
行政計画への反映・利活用
調査・研究の実施・評価



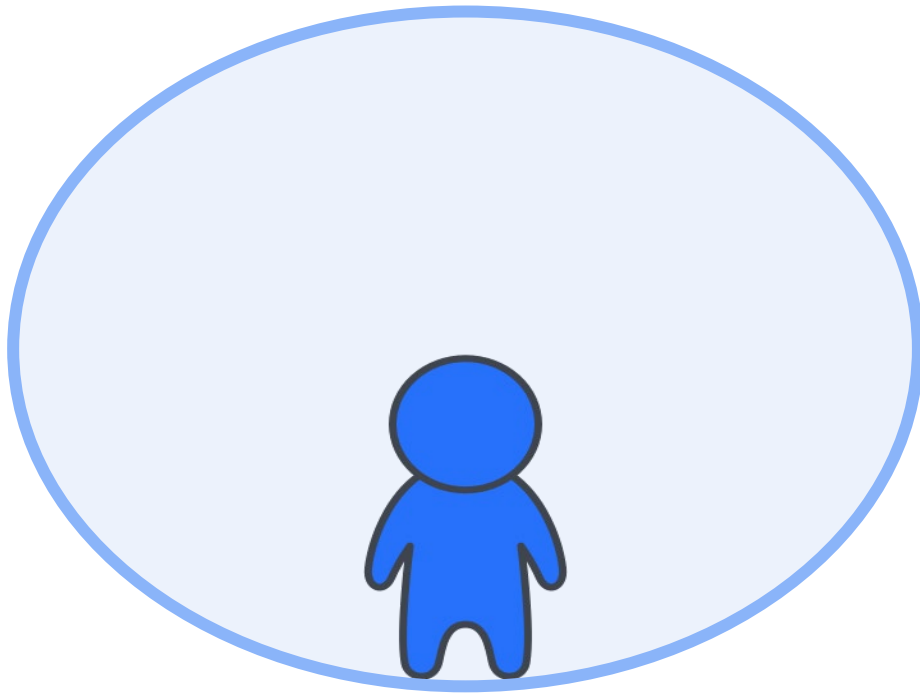
全国各地へ



アジアへ

沖縄のこどもにとって大切なこと

～これまでの協議体の議論から～



こども・若者

- 自己効力感
- こころの問題
- 体験
- 将来への希望・夢

環境要素

- 家庭・妊婦・親の状態
- 学校の役割
- 地域・コミュニティの形成
- 相談する/応援してくれる人
- 貧困対策

その他のキーワード

- ・すべてのこども対象（ポピュレーションアプローチ）
- ・データの利活用

未来を問い続け、変革を先駆ける

MRI エム・アール・アイリサーチアソシエイツ